

# ながさき県民大学主催講座 直谷城と福井洞窟

佐世保  
遺跡  
レポート  
2012.7.7開催

2012年7月7日(土)。ながさき県民大学が主催する直谷城と福井洞窟の講座に行ってきました。吉井エコツアーリズムガイドの和田隆さんが講師をされたんですが、この方は、小学校の6年間を直谷城の麓にある吉井町で過ごし、中学高校も直谷城裏門を通り通学して学生時代を直谷城近辺で過ごし、吉井町長を経て市議を務められた方で、直谷城への愛着がこうじて、小説も出版したりしている方で、現在は土器づくりや火おこしなど古代技術に挑戦する様々な体験活動を実施したり、また直谷城の史跡公園化などに向けて熱心に活動されています。

午前中は吉井町のしいのきの館で「直谷城物語3(秘話)」と題して直谷城の歴史、城の遺構の特徴、直谷城を巡る伝説などの講座をうけ、昼食タイムの後に、実際に直谷城に見学に行きました。

現場では極めて保存状態の良い遺構が各所に見られその一つ一つを和田さんが解説なされていました。その詳しい遺構の内容の説明は、今後、[佐世保戦国.com](http://www.sasebo.com)の直谷城ページに、追記させてもらいたいと思うので、そちらをご覧ください。

実は3年ほど前に私は一度直谷城へは来たことがありますが、その頃にはなかった城の復元図が描かれた案内板が建てられ草も刈られていました。これは和田さん達の地道な作業によるもので、和田さんいわく最終的には危険な場所での手すりの設置や、本丸平場跡に茶屋、休憩所のような、景観を損ねない昔風の建物の設置など直谷城跡の史跡公園としての保存を目指しているとのことでした。生まれ育った山を愛し、熱心に保全活動をなさっている姿に感銘を受けました。

その後、直谷城のすぐそばにある福井洞窟の見学に行きました。ここでは今年の2月から行っている発掘調査の成果や、出土品や発掘現場の見学をしました。佐世保市教育委員会の方の説明をそのまま伝えますと、昭和11年に福井神社の再建が行われる際に郷土史家の松瀬さんが土器を発見し、ここが遺跡であることがわかりました。その後昭和35年になり、島瀬美術センターで行われた、佐世保市内の石器等の展示会に訪れた、考古学専門の方が、福井洞窟からの出土品の重要性を感じて本格的な発掘調査が行われることになりました。その発掘によって日本の学術的にも重要な発見が2つありました。1つは、隆起線文土器が発見されたことです、石器のみが出土していた地層から、ある一定の地層になり石器とともに土器が発見されました。その土器が発見された地層というのが1万2000年程前の地層で、このことにより今まではっきりとしていなかった石器時代から縄文時代へのうつりかわった年代が特定されたのでした。もう一つの発見は、その隆起線文土器が発見された地層から約6メートルほど掘った最下層から石器が見つかったのです。これは今でもはっきりとどういう意図で使われていた物かはっきりとはしておらず他に類例をみないそうですが、約3万2千年前の物で、今でも日本で最古級の石器になるそうです。それがどうということかという、今から20万年前にアフリカで誕生したといわれるホモサピエンスが、ヨーロッパやユーラシア大陸を抜けて分派していき、端っこにある列島(日本)へたどり着いた、その最初の人類の生活の痕跡が福井洞窟かもしれないという日本人のルーツに関わる壮大なスケールのお話です。まあとにかく、そのような重要な調査報告を受けて昭和55年に福井洞窟は国指定文化財に認定されました。

ちなみに国の史跡は全国に1700ほどあり、その中で旧石器時代の史跡(2万年を超えるような史跡)は10件しかなく、なかでも洞窟遺跡は福井洞窟だけだということで、全国的に見ても非常に価値の高い遺跡です。さらに佐世保市内に洞窟遺跡は30箇所あり、これは全国でも一番多い数です。そういうことから質、量ともにこと洞窟遺跡に関して佐世保市というのは学術的にも優れた価値の高い遺跡が残っている場所だということです。



現在行われている調査は50年前に行われた調査結果を踏まえて半世紀たった今、もう一度調査しようということで行われたみたいです。普通、一度国の指定文化財に指定された場所を再度発掘することはしないそうですが、教育委員会の方が、地元の方が、詳しいことはわかりませんが、そのような方々の熱心な訴えにより、今回の調査が実現したみたいで、国指定の遺跡の発掘現場を現場を見学するのは滅多にできないらしく、とても貴重な体験でした。昭和に行われた発掘現場は今ではフェンスで囲まれていてフェンス越しに穴の中をのぞくことしかできませんが、今回は本殿を挟んでその右手に穴を掘って調査しています。実際の発掘現場へは3メートル50センチほど下へ階段をくだり、降りてそこで説明を受けました。今発掘している地層が2万5千年程の地層で、この時点まで、かなりの数の石器類が出土しており、見学することができます。今後は更に下へ2メートルほど掘っていき、約4万年ほど前の地層まで調べる予定だそうです。その頃の列島は氷河期の終わり頃の時代でまだ大陸と寒い時期だけはかろうじて氷でつながっていたと時期と思われおり、昭和の発掘で見つかった約3万2千年前の石器よりも更に古い時代の人類の痕跡が見つかるかもしれません。さらにその時代は、ナウマン象などの大型の獣類を追って大陸から人類はやっていたという説もあることから、ナウマン象などの大型獣の化石などが見つかる可能性もあり、古代のロマンを目の当たりにした1日でした。



※3年前には無かった立派な案内板



※築城当時のままの石段を登る